



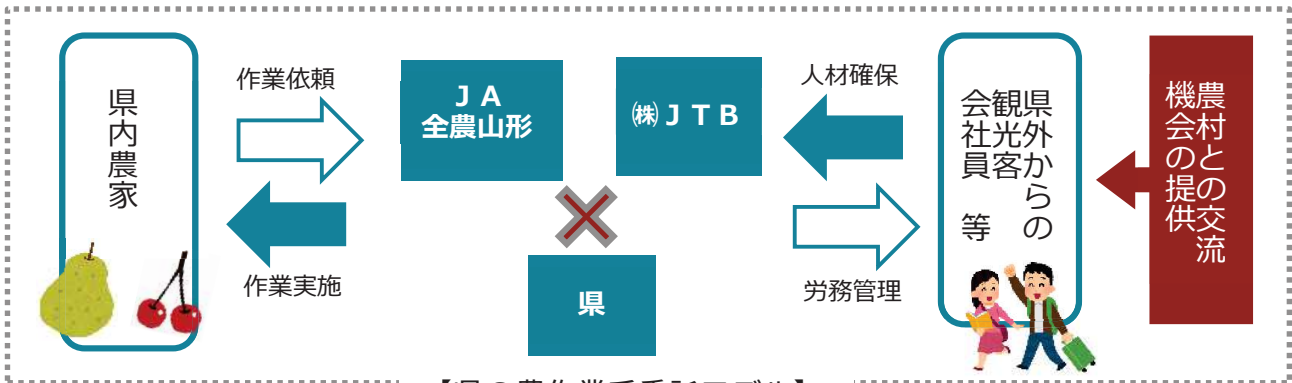
増やせ！関係人口

農業×観光で関係人口を創出

今年度、県はJA全農山形及び(株)JTBと三者協定を締結し、農業労働力不足の解消と農業を起点とした関係人口の拡大に取り組んでいる。具体的には、県内での農作業を希望する首都圏等の会社員や観光客などが、繁忙期の農作業を行うために山形を訪れるのに合わせ、オプションツアーとして、県内の農村地域の方と交流し、農村の魅力に触れてもらい、継続的に地域に関わってもらおうこと

(「関係人口の創出」をねらいとする「農村交流イベント」を企画。今年度は6月のさくらんぼの時期と、10月のラ・フランスの収穫時期にそれぞれ交流イベントを開催した。

県内をはじめとする全国の農村地域では、高齢化や人口減少に伴い担い手が不足し、地域活動の継続や、集落の維持も困難となっている。一方、都市部等には居住地以外での地域貢献活動に興味を持つ人も少なくない。そのため県では、こうした潜在的なニーズを組み合わせ、農村部での地域活動の担い手となる「関係人口」を増やすことで、農村の維持・発展を目指す取り組みを進めている。



【県の農作業受委託モデル】

大倉地域での農村交流イベント

今年度2回目となるイベントに参加したのは、ラ・フランスの収穫作業のため東京や大阪などから訪れた6名。今回の農村交流イベントの舞台となったのは村山市の大倉地域。同地域住民で組織する「大倉地域元気な街づくり協議会」でフットパスを核としたイベントを主催する「むらやま大倉フットパス夢クラブ」（夢クラブ）が地域の案内を行った。当日はあいにくの雨模様だったが、参加者たちは夢クラブの説明を興味深く聞きながら神社や史跡を巡った。昼食は地域内の農家レストランで、地元食材をふんだんに使ったお膳が提供された。中には、棒たらや菊など、参加者が見慣れないメニューも並び、参加者は山形の豊かな食を楽しんだ。

夢クラブのメンバーは「大倉地域の魅力はほかにたくさんある。今回来てくださった皆さんには、季節を変えてまた訪れてもらいたい」と語った。



コースを歩きながら、植物や地域の歴史などを解説いただく。



地域の語り部による地域行事についてのお話。



農家レストランにて昼食。店主より地元食材を使ったメニューの紹介。



イベントの記念に、拾った落ち葉や木の実などをラミネートしてしおりに。

農作業も含め、単に観光として訪れるのとは違う楽しさがある。農村地域の方から直接お話をお聞きしたり、地域の歴史を知ったりすることで“通りすがり”ではない経験をすることができた。



イベントを通し、地域の皆さんの「地元愛」をひしひしと感じた。

季節によって地域の色々な面を見られそう。他の時期にもぜひまた訪れたい。

参加者の声

お問い合わせ

・農村交流イベント（県農業経営・所得向上推進課）

TEL : 023-630-2464